

糖尿病地域連携パスについて

近年、糖尿病患者数は、増加の一途を辿り、平成 18 年の厚生労働省糖尿病実態調査では、糖尿病が強く疑われるもの 820 万人に、糖尿病の可能性が否定できないもの 1050 万人を加えると、1870 万人に昇ります。心疾患および脳卒中の危険因子として、また、糖尿病慢性合併症である糖尿病腎症による血液透析の導入など、糖尿病の発症、進展、合併症予防のために糖尿病患者に対する早期からの厳格な治療介入が望まれています。しかし、これらの膨大な糖尿病患者で、医療機関により治療を受けているものは約半数であり、通院治療中の糖尿病患者であっても充分良好な血糖コントロールに維持されているとは言えません。こうした中で、生活習慣病対策を支援する仕組みを構築することが求められています。天王寺区糖尿病対策推進会議では、糖尿病地域連携パスを作成し、糖尿病地域連携パスを使用することにより、糖尿病治療の標準化、コントロール不良患者に対する教育入院やインスリン導入時、治療中の低血糖に対する救急対応など地域と中核病院との円滑な連携医療ができるものと期待しています。

糖尿病地域連携パスでは、パスの概要に示すように、専門外来で、教育入院、インスリン導入、合併症の評価、栄養指導などを行った後、地域の先生方にフォローアップ頂き、コントロール不良の症例、糖尿病慢性合併症が出たときなどには再び専門外来を紹介いただき、治療の再評価、患者教育を行った後に再び地域の先生方にフォローアップ頂くような糖尿病地域連携に対する共通の認識の基に、システムを運用していきたいと考えております。この度天王寺区糖尿病対策推進会議では、天王寺区と近隣の区に呼びかけ、上記の趣旨にご賛同いただける先生方に糖尿病地域連携パスにご参加いただきたいと考えております。

平成 20 年 月 日

天王寺区糖尿病対策推進会議